

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-1	課題名	1. 発酵粗飼料に対応した水稻の品種の選定と低成本栽培法の確立				
期間	22~24年度		担当部課室	作物研究室、中山間農業研究室		評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	1	5				4.2
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	5				4.2
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	5				4.2
	・今取り組むべき課題であるか。	2	4				4.3
有効性	・経済効果は認められるか。	1	2	3			3.7
	・県民生活の向上に寄与するか。	1	3	2			3.8
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	2	2	2			4.0
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	5	1				3.8
	・新規性・独創性があるか。	4	2				3.7
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	2	3	1			4.2
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	4				4.3
	・計画や実施体制は適切か。	1	5				4.2
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	2	4				4.3
総合評価	5: 優先的に実施することが適當 4: 実施することが適當 3: 計画等を改善して実施することが適當 2: 実施の必要性が低い。 1: 計画等を見直して再評価を受けることが必要	2	4				4.3

助言・指摘事項等
<ul style="list-style-type: none"> ・自給粗飼料の供給による水田の高度利用や自給率向上の観点から、発酵粗飼料用水稻の省力・低コスト・多収栽培法の確立は重要度の高い喫緊の課題であり、成果達成の可能性は高い。本課題の成否は資材費をいかに抑制できるかが鍵であり、主食用の米の栽培にも応用できるので、大きなインパクトを与える可能性もある。 ・県内の農家に栽培技術が蓄積されている主食用晚生品種「アケボノ」等に着目した点は評価できる。この研究により飼料米の栽培で問題となる漏生粉による混種問題が回避されることで、水田が有効利用され、岡山ブランド畜産物の生産への貢献も期待できる。さらに、主食品種を用いることで食料危機に際しては、直接の消費も可能である等メリットが大きい。 ・開発される技術を上手く機能させるには、耕畜連携を見据えた技術・経営との連携が不可欠で、県の南北間での発酵粗飼料と堆肥の流通システムの構築、それに関連する情報システムの構築も必要である。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-2	課題名	2 . 生育阻害要因の解決によるビール大麦の高品質安定生産技術の確立				
期間	22 ~ 24 年度		担当部課室	作物研究室、化学研究室		評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	4	1			4.0
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	4	1			4.0
	・今取り組むべき課題であるか。	2	2	2			4.0
有効性	・経済効果は認められるか。	2	1	3			3.8
	・県民生活の向上に寄与するか。		2	4			3.3
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	2	2	2			4.0
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7
	・新規性・独創性があるか。		3	3			3.5
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	1	4	1			4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	3	1			4.2
	・計画や実施体制は適切か。	1	3	2			3.8
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	5				4.2
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要						4 . 2

助言・指摘事項等

- ・水田の高度利用のため、米以外の有利作目として導入すれば、農家のメリットは大きいことから、実需ニーズに応えるための高品質で短期収穫可能な品種を用いた栽培技術は確立すべき喫緊の課題と感じる。開発される成果は食品工業原料への利用に留まらず多方面での利用が期待される。
- ・技術開発だけでなく、農業経営面での導入可能性も検討する必要がある。
- ・品種ミハルゴールドに特化することが妥当か否か（本品種が、ビール原料、商品作物として重要である点は理解できるが）という本質的な疑問が残る。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-3	課題名	3 . 加温ブドウの省エネルギー化を図る変温管理技術の開発				
期間	22 ~ 24 年度		担当部課室	果樹研究室		評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点 / 人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	4	2				4.7
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	5				4.2
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	4				4.3
	・今取り組むべき課題であるか。	4	2				4.7
有効性	・経済効果は認められるか。	3	3				4.5
	・県民生活の向上に寄与するか。	1	5				4.2
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	3	3				4.5
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	2	4				4.3
	・新規性・独創性があるか。	2	4				4.3
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	1	5				4.2
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	4				4.3
	・計画や実施体制は適切か。	1	5				4.2
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	5				4.2
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	4	2				4 . 7

助言・指摘事項等

- ・燃油価格の不安定な現状における生産費節減による経済効果が大きいだけでなく、温室効果ガス（二酸化炭素）削減のための環境対応技術としても優れている。
- ・変温管理により省エネルギー化を図ることは、加温ブドウの高品質安定生産に貢献するだけでなく、開発される成果は他の主要農産物の生産にも重要な意味を持つと考えられる。他県に先駆けての早急な技術開発が切望される。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-4	課題名	4. ブランド化を目指した「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立					
期間	22~26年度		担当部課室	果樹研究室		評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	4	2				4.7
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	3	3				4.5
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	4	2				4.7
	・今取り組むべき課題であるか。	5	1				4.8
有効性	・経済効果は認められるか。	3	3				4.5
	・県民生活の向上に寄与するか。	2	3	1			4.2
	・成果が有效地に利用されることが見込まれるか。	4	2				4.7
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	2	4				4.3
	・新規性・独創性があるか。	1	5				4.2
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	3	3				4.5
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	3	3				4.5
	・計画や実施体制は適切か。	2	4				4.3
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	3	3				4.5
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	4	2				4.7

助言・指摘事項等

- 全国的に注目されているぶどう新品種「シャインマスカット」は、産地間競争が激化する可能性が高く、県内でもシャインマスカットへの期待は大きい。
- 岡山ブランドの評価をより高めるには、本県ならではの高品質な「シャインマスカット」の栽培技術の確立が重要であり、早急に優先して技術開発すべき課題である。
- 種なしマスカットやピオーネなど、他のブドウとの消費面での棲み分けや販売ルートなど、本県のブドウ生産全体が発展するようなマーケティング戦略を策定し、その中の「シャインマスカット」の位置付け、販売戦略を検討する必要がある。
- 「岡山のシャインマスカット」のブランドを確立し、品質の良さを宣伝することも重要である。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-5	課題名	5 . ナスの新台木系統の栽培技術の確立					
期間	22 ~ 24 年度		担当部課室	野菜・花研究室		評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点 / 人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	3	3				4.5
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	4	1			4.0
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	4				4.3
	・今取り組むべき課題であるか。	2	4				4.3
有効性	・経済効果は認められるか。	3	3				4.5
	・県民生活の向上に寄与するか。	1	4	1			4.0
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	3	3				4.5
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	1	4	1			4.0
	・新規性・独創性があるか。	1	4	1			4.0
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	1	4	1			4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	3	1			4.2
	・計画や実施体制は適切か。	2	3	1			4.2
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	4	1			4.0
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	2	4				4 . 3

助言・指摘事項等
<ul style="list-style-type: none"> 岡山県及び野菜茶業研究所で育成した土壤病害抵抗性の新台木の栽培方法の確立と現地試験であり、岡山の「千両ナス」ブランドの維持発展には欠かせない技術開発である。 有望な台木系統が既に見いだされており、新台木の栽培方法を早急に確立することで実用化の可能性は高く、スムーズに普及させるために必要な技術開発であり実施が望まれる。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-6	課題名	6 . スイートピーの落葉多発条件の解明と落葉抑制剤実用技術の確立					
期間	22 ~ 24 年度		担当部課室	野菜・花研究室		評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	2	2			4.0	4.1
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	3	2			3.8	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	3	1			4.2	
	・今取り組むべき課題であるか。	2	3	1			4.2	
有効性	・経済効果は認められるか。	2	3	1			4.2	3.8
	・県民生活の向上に寄与するか。		3	3			3.5	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	4	1			4.0	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		3	3			3.5	
	・新規性・独創性があるか。	2	2	2			4.0	
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	2	1	3			3.8	3.9
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	2	2			4.0	
	・計画や実施体制は適切か。	1	3	2			3.8	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	4	1			4.0	
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	5				4 . 2	

助言・指摘事項等

- ・岡山ブランドであるスイートピーの生産安定や発展のためには、ぜひ早急に落葉抑制技術の開発を実施し、現場からの要望に応える必要がある。また、開発される成果は全国のスイートピー生産者の経営安定に貢献すると考えられる。
- ・落葉抑制活性を示す新規剤を予備試験で見出しており実現可能性は高いと考える。これに限らず落葉多発原因の解明に重点的に取り組む必要がある。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-7	課題名	7 . 消費ニーズによる岡山米の生産・販売方向				
期間	22 ~ 24年度		担当部課室	経営研究室		評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	3	2			3.8
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	3	2			3.8
	・今取り組むべき課題であるか。	2	3	1			4.2
有効性	・経済効果は認められるか。		3	3			3.5
	・県民生活の向上に寄与するか。		4	2			3.7
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。		5	1			3.8
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7
	・新規性・独創性があるか。		1	5			3.2
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。		3	3			3.5
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		2	4			3.3
	・計画や実施体制は適切か。		2	4			3.3
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		4	2			3.7
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	3	2			3 . 8

助言・指摘事項等

- ・岡山県産米の生産・販売拡大は緊急性があり、県政の政策的なイニシアティブは欠かせないと考える。また、県産米の実態調査が近年行われていないので、実施する価値はある。
- ・県行政・全農と緊密に連携して取り組みを行い、この成果により岡山の米のブランド化が図られることを期待する。
- ・岡山米のブランド化には、消費者ニーズを的確に把握し、ニーズに合致し、かつ他県産米とも差別化できる特色ある品種を選定し、一定の品質基準と栽培基準によって栽培された相当量の米を用いた新商品の開発が必要である。しかし、有望な新品種が見込めない状況にあっては、如何にして(手持ち)品種のブランド化を図るかという点が重要であると考える。
- ・設問の仕方等によっては消費者ニーズの把握が実態と異なることも懸念されるが、消費者ニーズを的確に反映したデータを用いた解析による最適コンセプトを抽出することは重要である。しかし、それだけで岡山産米の生産・販売の方向性は見えてこない可能性が高い。米の流通業者(仲買、卸、産地商人など)へのアンケート調査等による情報収集を行い県産米の多様な流通ルートを解明し、これらに基づいて総合的な県産米販売に関わるマーケティング戦略を立案する必要がある。
- ・研究予算が少ない。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	21-事前-8	課題名	8 . 中山間地域に適した野菜新品種の育成・選定と品種特性を発揮させる栽培技術確立					
期間	22 ~ 26 年度		担当部課室	中山間農業研究室		評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	3	3				4.5
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	2	2	2			4.0
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	4	1	1			4.5
	・今取り組むべき課題であるか。	4	2				4.7
有効性	・経済効果は認められるか。	2	3	1			4.2
	・県民生活の向上に寄与するか。	1	3	2			3.8
	・成果が有效地に利用されることが見込まれるか。	2	3	1			4.2
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	1	5				4.2
	・新規性・独創性があるか。	1	4	1			4.0
効率性 ・妥当性	・費用対効果は適切か。	1	4	1			4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	3	1			4.2
	・計画や実施体制は適切か。	1	4	1			4.0
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	4	1			4.0
総合評価	5 : 優先的に実施することが適當 4 : 実施することが適當 3 : 計画等を改善して実施することが適當 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	3	3				4 . 5

助言・指摘事項等

- ・中山間地域の農業を活性化し、地域を豊かにするためには、立地条件を活かし得る農産物をブランド化するための取り組みが必要であり、農業振興上重要な課題である。
- ・本課題で取り組む中山間地域に適した耐暑性で多収の四季成り性イチゴ品種の育成やジャンボピーマンの抵抗性台木の選定は、現場からの要望課題であり、四季成り性イチゴで有望系統が見つかっているなど実現可能性は高く、早期の技術確立が大いに期待できる。
- ・中山間地域におけるブランド野菜の開発推進に向けて、各農家の保存する歴史的な品種と栽培技術の収集を強く要望したい。
- ・研究予算が少ない。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入